

『大麻って何が悪いの？』

【スライド1】

今日は大麻についてお話しします。

※大麻以外にも、覚醒剤や MDMA など、色々な違法薬物が出回っているが、今日は何故、大麻の話なのか？

→ここ数年、若い人たちを中心に大麻が蔓延しているから

※何故、若い人たちの間に大麻が蔓延するのか？

→大麻の危険性(有害性)が世の中に伝わっていないから。

また、大麻に対する誤った情報(大麻は安全。大麻は合法など)が、ネット上に溢れているから。

※本日の講義の内容は？

→大麻に対する誤った情報を信じる人が多いことが、乱用者増加の原因。

本日は、大麻について、本当のこと(有害性・害悪性)を中心に話していきます。

※スライド 15 からスライド 24 まで(Q①～⑤)は、大麻についてよく言われている間違った情報について、Q & A という形で載せています。もし時間があれば、答えを見せる前に一度学生に考えさせてみてください。

【スライド2】

「大麻」という言葉を一度は耳にしたことがあると思います。ニュースでも取り上げられたりしていま

すよね。どんな人が使っていて、どんな人が検挙されていると思いますか？大人が使っているイメージ

が強いのではないかと思います。

でもそれは間違います。中学生、高校生でも大麻を使用して検挙されている人がいます。

表を見てください。検挙人員は長期的に見ると増加傾向にあり、2025 年に検挙された人の約 16%が

10 代の若者でした。つまり、皆さんは当事者です。他人事じゃありません。

※どれくらい検挙されているのか？

→福岡県内では、2015 年以降、大麻で検挙される人が増加傾向

2025 年は、408人が大麻で検挙

2025 年は、68人の 10 代を検挙

※大麻を使っている人たちは、何人くらいいるのか？

→昨年、県内で検挙された人の数は、408人

実際、検挙されていない大麻乱用者は、この何倍もいる。
警察に検挙された**408人**は、氷山の一角

※自分には大麻は関係ないと思っている人へ
→未成年(20歳未満)の割合が**16.6%(2025年)**
中高生でも検挙されている者もいる。
他人事ではない。

【スライド3】

ではなぜ大麻を使ってしまうのでしょうか?

きっかけとして、一番多いパターンは「友人や知人に誘われる」です。「一回だけなら大丈夫」「周りも

みんなやってるから大丈夫」などの言葉で誘ってきます。ここで「一回だけなら…」と手を出してしまう

のです。でも一回で終わることはありません。

※大麻を使い始めたきっかけは?
→「友人・知人誘われて」、「好奇心で」、「興味本位で」(その場のノリで、軽く考えて、使い始める。)

※友人・先輩など身近な人が大麻に誘う?
→素性も知らない通りすがりの人から誘われたら?→ 相手にしない(やらない)。
しかし、友人・先輩など親しい人から誘われたら?→ 断りづらい。

※友達がみんな大麻を使っていたら?
→自分だけ使わるのはカッコ悪いし、気まずいし、誘いを断りづらい。

※「大麻くらい大丈夫」、「一回くらい大丈夫」
→大麻のことを軽く考え、その場のノリで使ってしまう。
(「大麻使うと死ぬよ」と言われたら使うか?→ 使わない)
「やっぱり大麻は大したことない」と考えている。
1回でも使用してしまうと、ハードルを1つ乗り越えたことになる。
1度ハードルを越えると、2度目、3度目は罪悪感を感じなくなり、大麻の沼にハマっていくことになる。
最初の1度目を使用しないことが重要。

【スライド4】

大学生にアンケートを取りました。アンケートの結果、大麻の知識を得る機会は「学校」「ネット」

「SNS」でした。「学校」は今皆さん受けているこの授業のような薬物乱用防止教室のことです。おそらく皆さんもこの3つから情報収集しているのではないかと思います。

しかし「ネット」「SNS」にはウソの情報が溢れています。また、自分に都合の良い情報だけが集まつ
てくる場所だということを忘れてはいけません。

※大麻に関する情報はどこから入手しているか？

→インターネットが普及する以前は、学校での授業(薬物乱用防止教室)などでしか大麻の知識は得られなかつた。誰もがスマホを持っている現在では、ネットから、本当の情報もウソの情報も入ってくる。(ウソの情報が氾濫している。)

※アンケートの対象とその結果

→令和6年、福岡市内の普通の大学生たちにアンケート調査を実施

大麻に関する知識・情報は、学校の薬物乱用防止教室などのほか、ネットや SNS から入手していることが窺える。

- ・ 学校～薬物乱用防止教室や授業で薬物の危険性について学ぶ
- ・ ネット～大麻事件の報道や大麻規制の動向などニュースで知る
　　大麻に関する誤った情報(嘘の情報)を閲覧
- ・ SNS～大麻の密売広告を閲覧

※令和5年、警察庁が大麻で検挙された若者(20歳代以下)を調査した結果

→密売人を知った方法は、4割以上がネット経由で、そのうちほとんどが SNS を利用していた。

【スライド5】

まず、大麻がなぜ悪いのかについて説明します。

大麻には大きく分けて「身体的な有害性」と「社会的な有害性」の2つがあります。

※大麻にはどのような害があるのか？

→大麻には、「身体的な有害性」があり、自分自身を苦しめます。
　また、周囲の人を巻き込み、迷惑をかける「社会的な有害性」があります。

※「身体的な有害性」

- 脳へのダメージ
- 依存症

※「社会的な有害性」

- 社会的孤立
- 大切な人を巻き込む

【スライド6】

「身体的な有害性」から話します。

第一に、大麻を使ってしまうと、生涯にわたる記憶の著しい低下が起こります。

脳がまだ成長途中である皆さん(中高生)への影響は本当に計り知れません。

※記憶力の低下とは？

→大麻の成分(THC)が、脳の神経回路を削り取る。

→記憶力に影響(脳全体に満遍なく効くので、全ての機能を落とす。)

→勉強・仕事が出来なくなる。

※若い人の場合、脳への影響は？

→成長段階である若い人の脳には深刻なダメージ

→1度ダメージを受けた脳は、元には戻らないので深刻な被害

【スライド7】

記憶力が低下するとどうなるか？よくある例なのですが、これまで大麻を乱用していたある若者が、

「大麻をやめて、これから仕事を頑張ろう」と思い、コンビニでアルバイトを始めたとします。コンビニっ

てレジ打ちやら品出しやら発注やら、山ほどやることがありますよね。普通の若い人ならなんとか覚え

てやっていけるようなことが、記憶力の低下によって、出来ないことが多いのです。いつまで経っても

覚えられないとか、仕事が遅いとか、結局辞めざるをえなくなるケースも多いです。もちろん、学校の

勉強にもついていけません。

大麻をやめた後も、脳への影響が残るのです。

※大麻を乱用することの影響

→記憶力の低下 → 仕事や勉強が出来なくなる。

※立ち直りが難しい

→大麻をやめて、心を入れ替え、真面目に勉強(仕事)しようとした場合

→大麻の影響で記憶力が低下(神経回路が削られた状態)

→勉強(仕事)がしたくても、勉強(仕事)を覚えられない。

【スライド8】

第二に、大麻には深刻な依存性があります。一度覚えた快楽は二度と忘れられません。このイラス

トのように、悪循環から抜け出せなくなります。

「一度だけなら大丈夫。簡単にやめられる。」などと軽い気持ちで手を出す人がいますが、決してそ

んなことはありません。

※どうして大麻を使うのか？

→努力なくしてスカッと気分が晴れるから(ドーパミンが出る)

○ 通常の場合

「努力→達成→ドーパミンが出る」ので気持ちよくなる。

～ 例:「たくさん練習→試合に勝つ→スカッとする(ドーパミンが出る)」

○ 大麻を使用した場合

「大麻を吸う→ドーパミンが出る」ので気持ちよくなる。

～ 「努力→達成」のプロセスを踏まずにドーパミンが出る。

※ ドーパミン～報酬系神経伝達物質

※なぜやめられなくなるのか？

→大麻を吸って、一度でもスカッとストレスが無くなつて気分が良くなることを脳が記憶してしまうと、それが忘れられず繰り返し使つてしまうようになる。

簡単にはやめられなくなる。これが大麻依存症の始まり。

※大麻に依存性が無いとネットに書いてあるが？

→現実には、自分で大麻がやめられず、精神科に通院する人もいる。

【スライド9】

次は「社会的な有害性」について話します。

これは 20 代男性の大麻乱用者の実際のお話です。(事例を読み上げる)

※海外で大麻が合法な国がある理由→ スライド23, 24で説明

※社会的な有害性

→大麻(ドラッグ)を使用

→周囲からルールを守れない人間として見られる

→周囲からの信用がなくなる

→学校・会社を辞めざるを得なくなる

→簡単・高収入の仕事(薬物密売や闇バイト)に加担

→さらに周囲からの信用がなくなる

→大麻所持(密売)で警察に逮捕

→さらに周囲からの信用がなくなる

釈放後、真面目に働くとするも再度大麻を使用、上記を繰り返す

繰り返すことで、周囲から人がどんどん離れていく→孤立化

【スライド 10】

これは大麻の使用者から密売人になったケースでした。(事例を読み上げる。)

気が付けば、大麻の使用者から密売人になっていたというものです。

大麻を使用し、より効果を求めて使用する量が次第に増え、全財産を失っても、それでもやめること

が出来ずに密売人に…。精神科の先生によると、「大麻を使用すると、明らかに使用量が増えていつ

ているのに、自分が依存症になっていることに気づかない」そうです。

※大麻は大切な人を巻き込む(迷惑をかける)

→同居の家族(両親、兄弟、妻、子)は、どうなるでしょうか？

- 自宅に警察官が来て、逮捕されます。
- 警察官が来て、自宅をガサ入れ(搜索)されます。
- 同居家族が警察署に呼ばれ、事情聴取されます。
- 家族が裁判に証人として出廷する可能性があります。
- あなたが成人の場合、新聞等で実名報道されます。

※この場合、住所、年齢まで報道されることもあります。

★そして何より、大切なあなたが逮捕されたことを家族は深く悲します。

※薬物刑事からの一言

→「大麻(ドラッグ)の乱用者(客)が、大麻から抜け出せなくなり、最も手っ取り早く入手できるため、密売人になる例は、実際、珍しくありません。」

【スライド 11】

結果、この男性は誰とも繋がりの無い状態になり社会的に孤立しました。そして、家族や友人、大

切な人を巻き込みました。

このように、大麻は「使って気持ちよかったです、はいおしまい」とはいきません。どんなに悲惨な状況に

陥っても、やめることができないのです。そして一人ぼっちになっていきます。また、大麻は暴力団の

資金源であるということを覚えておいてください。大麻を買う・売ることは暴力団がやっていることと同じ

で立派な犯罪です。

※大麻の乱用を続けていくと

- やめられなくなる(依存性)。
- 家族や友人、パートナーを巻き込み、迷惑を掛ける。
- 繰り返していくと、周りから大切な人たちが離れていく(孤立化)
- 人間関係は、大麻仲間、密売人、暴力団だけになってくる(不良化)
- 密売人の薬物密売や暴力団の犯罪を手伝うようになる。
- 密売や犯罪から抜け出せなくなる(犯罪グループの一員になる)。

※薬物刑事からひと言

→「大麻乱用者に犯罪を犯す人が多いのか？犯罪者に大麻を乱用する人が多いのか？若者が多い振り込め詐欺のアビをガサ入れ(検索)すると、かなりの確率で大麻を発見することができます。」

【スライド 12】

大麻は他のドラッグへの入り口(ゲートウェイドラッグ)です。大麻から覚醒剤などのより危険な薬物

に手を出す人が多いです。

次は、先ほどとは別の 20 代男性の事例です。職場の先輩から誘われ断れず始めたものの次第に

大麻使用を繰り返すようになり、より効果の強い MDMA(幻覚剤)にも手を出すようになりました。恋人

や給料、家までも失いましたがやめられず、しだいに幻覚や幻聴が現れ、他者へ暴力を振る、最終的

に逮捕されました。

※ゲートウェイドラッグとしての大麻

→ 大麻を扱う密売人は、コカインや MDMA などの麻薬等も扱っている。

→大麻を購入しているうちに、密売人から、より高価で、より強烈な麻薬や覚醒剤の購入を勧めされることもある。

※薬物刑事からひと言

「大麻密売人から錠剤を購入し、それが覚醒剤の錠剤だと知らずに所持していた例もあります。大麻は比較的安価なので、密売人が、さらに利益をあげるため、より高価なコカイン、MDMA、覚醒剤などを売り込んでくる例も散見されます。また、大麻の乱用者自らが、より強い刺激を求め、コカイン等に手を出す例もあります。」

【スライド 13】

大麻に手を出すきっかけとして、友人や知人から誘われ断れない場合が多いと言いました。紹介し

た事例でもそうでしたね。

では、誘われた時に皆さんはどうな行動をとればよいでしょうか。

一番良い方法は、「やらない」、「興味がない」と言ってきっぱり断ることです。皆さん、分かっている

と思います。アンケート結果でもそうでした。

しかし、皆さん、それを分かっているのに大麻使用者は増え続けています。

親しい友人や先輩から、「一緒に大麻をやらないか？」と誘われた時のことを想像してみて下さい。

きっぱりと断るのは、なかなか難しいかもしれません。

では、どうすべきか？その方法をここに提案します。

※大麻を誘われた時の対処法(はっきりと断る！)

→○「大麻はやらない」、「興味がない」とはっきり断る。 ←これが一番良い方法

そこで迷いなく答えることが、これから的人生を救うことになる。

→○大麻を使い始めるきっかけ(アンケート結果から)

「友人・知人誘われて」、「好奇心で」、「興味本位で」(その場のノリで軽く考えて、使い始める。)

※大麻を使い始める若者が増え続ける理由

→大麻の有害性(危険性)を理解していないことが原因

大麻の実態(有害性)を正しく理解していれば使用しない。

※大麻の有害性(危険性)を正しく知ることが重要

有害性(危険性)については、スライド 15 以降で説明

※誘われたけど断りにくい場合

親友、彼氏、先輩など、断りにくい場合もある。

こういう場合の対応方法については、次のスライドで説明

【スライド 14】

「話題を変える」、「その場から離れる」この2つです。

具体的なセリフをお教えします。『そういえば、今日はこれから用事があるんだった』

話題を変えて相手の誘いをかわしたり、トイレに行きたくなったとか電話がかかってきたとか、何か

口実を作ってとにかくその場から離れましょう。逃げましょう。

※誘われたけど断りにくい場合の対応法(親友、彼氏、先輩など、断りにくい場合)

○さりげなく話題を変えたり、興味がないことを示す。

○「用事がある」などと言ってその場を離れる。

○しつこい場合は、とにかくその場から逃げる。

※誘いを断ると周りの人(親友、彼氏等)が離れていく？

→誘いを断ることで離れていく人がいるかもしれない。

大麻を勧めてくる人は本当に大切(必要)な人ですか？

あなたは大切な人に大麻を勧めますか？

※一人で悩まないで！

→一人で悩まず、親、学校、警察などに相談する。

警察以外の相談窓口も開設されている。(スライド 29、30)

※薬物刑事からひと言

「大麻乱用に巻き込まれないためには、断る勇気を持つこと。大麻で人生をめちゃくちゃにされるよも、大麻を誘ってくる人があなたの周りから離れていく方がずっとマシ」

【スライド 15】大麻について知ろう！①

なぜ、お酒やタバコはいいのに、大麻は違法なの？

※ ネットでよく見かける誤った情報

→「大麻よりお酒・煙草の方が悪い。そもそも大麻だけ法律で禁止しているのはおかしい。合法化している国もあるんだし、日本の法律が遅れている。」

※ 昔の人は知っていた。

→ 大麻には幻覚があり、正しい判断や認知が出来なくなってしまう。

→昔から大麻は世界中の国々で禁止されている。

酒やタバコは殆どの国で禁止されていない。

※ 大麻草に含まれる主な成分について

○ THC(テトラヒドロカンabinol)

大麻草に含まれ、幻覚などの精神作用を引き起こす有害な成分(規制薬物)

○ CBD(カンナビジオール)

大麻草に含まれる成分であるが、精神作用を起こさないため規制の対象外

※ CBD 商品について

→最近、大麻草に含まれる成分(CBD)を使用した製品(サプリ、コスメなど)が、リラックス効果などを謳って販売されています。CBD 自体は、精神作用を起こさないため規制の対象外です。しかし、これらの製品の中には、禁止成分(THC)が含まれている場合もあるので、注意が必要です。

【スライド 16】

アルコールの依存症になる確率と、大麻の依存症になる確率を載せています。大麻のほうがアルコールよりも依存しやすいです。

また、大麻には気分を変える作用があり、それは必ずしもプラスにはならず、マイナスな気分にさせる可能性があります。これはタバコでは起こらないことです。

※アルコールと大麻

→お酒は、相当な量を飲まなければ、性格が変わったり、泥酔したりするようなことはない。一方、大麻は一服(一吸い)するだけで、善悪の判断が出来ないような状態にまでなってしまう。

※タバコの喫煙者数と大麻の検挙者数

→タバコは法律で禁止されていないにも関わらず、健康志向の高まりにより、喫煙者は減少。一方、

大麻は法律で禁止され、年々取締りが厳しくなっており、逮捕されるにもかかわらず乱用者は増加。

○ タバコの喫煙者数(成人男性)

健康志向の高まりにより減少(合法)

昭和40年(82.3%) → 令和4年(24.8%)

○ 大麻の検挙者数

年々取締りが厳しくなるにもかかわらず増加(違法)

平成26年(65名) → 令和5年(475名)

【スライド 17】大麻について知ろう！②

大麻を使っても精神病にならないんじょ？

※大麻は精神病になる。

→大麻の成分(カンナビノイド)は大脳皮質(知覚、随意運動、思考、記憶や学習などの高次機能を担当)の神経回路を削り取っていく。大麻を使えば使うほど、神経回路が削られ、脳の機能が落ちていき、脳(海馬)が委縮して、「記憶障害」になる。

※若者には特に深刻

→脳の成長段階にある若者が大麻を吸えば、まともな脳が作られなくなってしまう。成長期に大麻を常用すると、やめた後でも脳の機能は完全には回復しない。

【スライド 18】

精神科の先生によると、なります。大麻を使った結果、幻覚症状や何かしらの精神症状を抱えて、

精神科を受診する人がいるのが現状です。また、大麻の薬理作用の一つに多幸感をもたらすこともあ

りますが、一方で覚醒剤などにはない幻覚作用が大麻にはあり、音への感覚や物体の大きさの認識

まで、様々な変調をきたします。これが多幸感とも相まって、「空も飛べる」という感覚になり、高いところから飛び降りるなどして亡くなってしまう人もいます。

この幻覚作用こそが大麻特有のもので、正しい判断や認知ができなくなり、これによって、自殺や、

場合によっては、人を傷つけたり、殺人犯になる可能性だってあるのです。

※「大麻は精神病にならない」はウソ

→大麻の使用を続けていくと、幻覚や妄想が出て、最終的には認知症のような状態になる。また、乱用者の中には、一見普通に生活しているように見えても、実は記憶障害が出ていることが多い。結婚や就職で大麻をやめて、真面目に働くと改心した時、この記憶障害のせいで仕事を覚えることが出来ず、クビになるケースも多い。

※大麻の幻覚作用で、正しい判断や認知が出来なくなる。

→危険ドラッグが流行したとき(H25年頃)、異常な自動車事故が多発
→危険ドラッグに含まれていた合成カンナビノイドによる幻覚が原因
→米国の大麻を解禁した一部の州では、大麻が原因とみられる重大自動車事故が増えている。(大麻を吸って運転すると、通常の2.4倍も自動車事故に繋がるとの米国での調査結果もある。)

※ カンナビノイド

～幻覚作用を引き起こす大麻成分。これを化学合成したものが合成カンナビノイド

【スライド 19】大麻について知ろう！③

大麻には依存症がないって聞いたけど？

※どうして大麻を使うのか？

→努力なくしてスカッと気分が晴れるから(ドーパミンが出る)

○ 通常の場合

「努力→達成→ドーパミンが出る」ので気持ちよくなる。

～ 例:「たくさん練習→試合に勝つ→スカッとする(ドーパミンが出る)」

○ 大麻を使用した場合

「大麻を吸う→ドーパミンが出る」ので気持ちよくなる。

～ 「努力→達成」のプロセスを踏まずにドーパミンが出る。

※ ドーパミン～報酬系神経伝達物質

※なぜやめられなくなるのか？

→大麻を吸って、一度でもスカッとストレスが無くなつて気分が良くなることを脳が記憶してしまうと、それが忘れられず繰り返し使つてしまうようになる。

簡単にはやめられなくなる。これが大麻依存症の始まり。

※大麻に依存性が無いとネットに書いてあるが？

→現実には、自分で大麻がやめられず、精神科に通院する人もいる。

【スライド 20】

大麻にも依存性があります。

最初は症状が軽いことも多く、気が付けば通院や入院が必要なほど依存していた…ということも多くあります。

本人が依存しているという自覚がないままひどくなつていくことが特に怖いところです。

※大麻の依存性

→大麻は覚醒剤に比べると効きが緩やかである。

また、使用をやめても、不眠になつたり、食欲不振になる程度なので使つている本人は依存症があることに気づきにくい。

でも、仕事や結婚を契機に大麻をやめようとしてもやめられず、初めて自分が依存症になっていたと気づくことが多い。

※「覚醒剤は怖いけど、大麻くらいなら大丈夫」という誤解

→依存症患者や逮捕された人たちの多くが、「大麻くらいなら大丈夫」と誤った認識で手を出し、いつの間にか、入院したり逮捕されたりする事態にまで陥っている。

【スライド 21】大麻について知ろう！④

大麻を使っている人たちの中には、「大麻は自然由来だ！医療用大麻があるし、大丈夫でしょ！」

という人も多くいますが、医療用大麻と密売されている嗜好用大麻は全くの別物です。大麻は安全で

はありません。

※医療にも使われる大麻

→法改正により、難治性てんかん治療薬「エピディオレックス」の使用が可能になった(R6. 12～)。

【スライド 22】

医療用大麻と違法な大麻の違いについて説明します。

医療用大麻は製造から販売まで、法律で決められています。医療用大麻の栽培、製造、販売には、

免許が必要となります。医療用大麻は安全性が確立されているのです。

一方で、SNS などで入手できる大麻は、免許を持たない人たちが、勝手に作って、勝手に販売して

います。そのため、医療用大麻のように安全性が確立されておらず、危険なモノです。

また、「大麻は自然植物(由来)だから大丈夫」だとか言う人もいますが、自然界にはたくさんの猛毒

がありますし、コカインやアヘンのように植物由来の麻薬も沢山あります。「自然(植物)由来だから大

丈夫」は間違います。

大学生へのアンケート結果でも、医療用大麻と密売されている大麻(嗜好用大麻)の違いを分かつ

ていない学生がたくさんいました。

※「ナチュラルだから安全、ケミカルだから危険」は間違い

→植物由来の麻薬はたくさんある。

- ・ コカイン～ 中南米産のコカの葉が原料

- ・ あへん ～ ケシから採取した液汁を凝固させたもの
 - ・ LSD ～ ライ麦に寄生する麦角菌に含まれるリゼルキン酸が原料
- 自然界には危険な物質(毒)がたくさんある。
- ・ マウイイワスナギンチャク(ハワイのマウイ島に生息するサンゴ)
～ 青酸カリの約 8000 倍の毒を持つ
 - ・ フグは青酸カリの約 1000 倍の毒(テトロドトキシン)を持つ

※乱用大麻と医療用大麻は全くの別物

→医療用大麻は錠剤になっており、時間をかけて体内で溶けるようになっているから、血中濃度が上がるのをゆっくりコントロールしてくれる。一方、乱用大麻は、喫煙すると肺から瞬時に血に混ざり込んで、急激に血中濃度を上げ、その結果、脳に障害を生じることになる。

医療用大麻は製薬会社が製造し、医師が患者に合わせて適切に処方しているものであるが、乱用大麻は製造者も販売者も犯罪者であり、管理も販売も杜撰で、客がどうなるかなど全く考慮していない。

【スライド 23】大麻について知ろう！⑤

海外では大麻が合法の国もあるのに、日本ではなんで違法なの？

※大麻合法化の議論

→大麻は大きく区別して嗜好用、医療用、産業用の3用途に分けられる。問題となっているのは、嗜好用大麻である。

【スライド 24】

合法化されている国やアメリカの州は存在します。しかし、これらの国や州では、人口の半数近くに

大麻の使用経験があり、大麻の蔓延をやめることが難しくなっています。

取締りに莫大なお金がかかり、マフィアに資金が流れるくらいなら、大麻を合法化して、しっかり国で管理してしまおうという考え方の下、仕方なく合法化されています。そのため、どの国も州も、「大麻をどんどん使っていきましょう」と勧めているわけでは決してないのです。仕方なく合法化しているのです。

大学生へのアンケート結果でも、合法化の理由について、知らない人がたくさんいました。

※違法薬物の生涯経験率の違い

→生涯経験率とは、これまでに1回でも大麻を使った経験がある人が占める割合のこと

《違法薬物の生涯経験率(%)》

法務省「法務総合研究所研究部報告 S62～R2. 3」より抜粋

	対象年齢	何らかの違法薬物	大麻	調査年
日本	15~64歳	2. 3	1. 4	2017
米国	12歳以上	49. 2	45. 3	2018
英国	16~59歳	34. 2	30. 2	2018
カナダ	15歳以上	47. 9	46. 6	2017
オーストラリア	14歳以上	42. 6	34. 8	2016

割合が高い国ほど、違法薬物の蔓延という問題を抱えている。日本の違法薬物の蔓延率は、諸外国と比べ、他に類を見ないほど低い。諸外国が抱える大麻事情と日本の状況では全く違う。

※合法化する国の事情

→大麻が蔓延している国では、医療費、生活保護費、取締り費用、裁判費用、刑務所費用など膨大な費用がかかる。また、未成年への蔓延やマフィアへの資金流入も懸念される。このような事情からやむを得ず合法化を選択して国で管理している。

【スライド 25】中学生の事例紹介

福岡県内で実際にあった中学生の事例を紹介します。

※未成年の検挙(R5.福岡県)

→大麻で検挙された人(475人)のうち、22.9%(109人)が未成年

※中学生も他人事ではない。

→若者に大麻が流行る理由

- 危険性(有害性)の認識が低いこと
(誤った情報が氾濫し「大麻は悪くない」と信じている。)
- スマートフォンがあれば簡単に入手できること
(見知らぬ者同士が、SNSを通じて薬物をやり取りしている。)
- 覚醒剤と比べて安価であること

【スライド 26】中学生の事例 1

中学3年生。女の子。

クラブに行き、誘われたことをきっかけに初めて使う。

お酒や睡眠を促す薬と一緒に大麻を使い、16歳で逮捕される。

保護観察処分(家で過ごしながら、犯罪の更生のために指導を受けること)となるも、家出を繰り返すなどしていた。

17歳で覚醒剤の所持と使用で再び逮捕され、少年院送致となる。

※事例の問題点

実際に福岡県内で検挙された女の子の事例

→大麻の危険性(害悪性)に対する無知が原因

中学3年生の時、先輩たちから大麻を勧められ、「大麻は大丈夫」と言われ、『大麻の危険性』について知識のない彼女は、「大麻くらいなら大丈夫だろう」と軽く考えて使ってしまう。

→もし、彼女が『大麻の危険性』を正しく知っていたら？

手を出すことはなかったはず → だから、正しい知識が大切！

※ゲートウェイドラッグ

大麻は、他の薬物(麻薬、覚醒剤)に手を出すきっかけとなる『ゲートウェイドラッグ』と言われており、この事例は典型的である。

→大麻を使っていると、違法な薬物を使うことに対する罪悪感を失っていく。

大麻に慣れてしまうと、さらに刺激の強い薬物を求めるパターンが多い。

※事例の結果

→最初は軽い気持ちで始めた大麻が、人生を大きく狂わせる。

【スライド27】中学生の事例2

中学3年生。男の子。

受験や将来の不安を感じているときに先輩に誘われて初めて使う。

嫌なことや不安を避けることができ、やめられなくなる。

さらに依存性の強いMDMAやコカインといった麻薬を使うようになる。

一度逮捕されたが、出所後もやめられず、暴力団との関係も続き、大麻の売人となって再び逮捕される。

※事例の問題点

実際に福岡県内で検挙された男の子の事例

→大麻の危険性(害悪性)に対する無知が原因

中学3年生の時、先輩たちから大麻を勧められ、「1回だけなら大丈夫だろう。」と軽く考え、言われるままに大麻を使ってしまう。事例1の女の子と同じく、男の子に『大麻の危険性』について知識がなかったことが原因。

→もし、彼が『大麻の危険性』を正しく知っていたら？

手を出すことはなかったはず → だから、正しい知識が大切！

※ゲートウェイドラッグ

大麻は、他の薬物(麻薬、覚醒剤)に手を出すきっかけとなる『ゲートウェイドラッグ』と言われており、この事例も典型的であり、事例1と同じ。

→大麻を使っていると、違法な薬物を使うことに対する罪悪感を失っていく。
大麻に慣れてしまうと、さらに刺激の強い薬物を求めるパターンが多い。

※密売人は犯罪者

大麻の密売人は、違法薬物を販売している犯罪者である。暴力団やその関係者も多い。大麻(薬物)を手っ取り早く手に入れるために、客が自ら密売人(暴力団)の手下になり、密売の手伝いをするようになるケースも散見される。

【スライド 28】スライドの中で覚えておいてほしいこと

最後に今日のおさらいです。2つだけ覚えて帰ってください。

○ 1つ目～大麻は危険(有害)な薬物です。

大麻は一度使ってしまうと、簡単にはやめられなくなる恐ろしい薬物です。

○ 2つ目～大麻を始める年齢が若いほど危険性が高いです(特に中学生や高校生)。

○ そもそも日本では大麻を持つこと、使うことは違法であること(やってはいけない)を理解してください。
さい。大麻が違法であることを分かっていて使うのはとても異常なことです。

※大麻に対する正しい知識を覚えて帰ってください。

今日、お話ししたこと(大麻の危険性)が真実です。
→先輩たちが言う「大麻くらいなら大丈夫」、「1回だけなら大丈夫」は嘘
→ネットに溢れている「大麻は悪くない」情報は嘘

※大麻は『違法』薬物、所持使用は重罪

→大麻施用～7年以下の懲役
大麻所持～7年以下の懲役
麻薬施用～7年以下の懲役
麻薬所持～7年以下の懲役
覚醒剤使用～10年以下の懲役
覚醒剤所持～10年以下の懲役

【スライド 29】電話での相談窓口

大麻に友人が関わっている、自分が誘われてしまった、巻き込まれそうだといった場合には、子どもたちだけで解決しようとせず、身近な家族・先生に相談してください。身近な人に相談しにくい場合は相談機関もあります。

※周囲へ相談

→「大麻の使用を誘われた。」「友人が大麻を使っている人がいる。」など、大麻などの薬物に関することで困ったときは、一人で悩まずに周囲の大人(両親、先生など)に相談して下さい。薬物問題の解決には、大人の力が必要です。

→相談窓口では、相談に関する秘密は絶対に守られます。安心して相談できるので、各種相談窓口に問い合わせてください。

【スライド 30】LINE での相談窓口

「電話では相談しづらい。」そんな人たちのために LINE での匿名無料相談窓口もあります。皆さん

のような若い人たちを対象とした大麻に関する福岡県の相談窓口、「福岡県大麻乱用防止サポート窓

口」(大窓)です。

福岡県のホームページ内にあり、スライド下の「ご相談・ご質問はこちらの LINE フォームから」をクリ

ックすると LINE の「大窓」に繋がります。

秘密は厳守されますので、スマホで気軽に相談してください。